

平成17年度北海道男女平等参画チャレンジ賞受賞者一覧

【輝く女性のチャレンジ賞】

氏名	たざわ ゆり 田澤 由利	現職等	株式会社ワイズスタッフ代表取締役
住所	北見市	推薦者	北見市長
<p>《受賞理由》</p> <p>奈良県出身。昭和60年電機メーカーに入社、コンピュータ関連の技術、企画、販売促進等の業務に従事。平成3年に夫の転勤と妊娠が重なり退職せざるを得なくなったが、社会と関わり続け自分の能力を生かしたいとの思いから、フリーライターとして独立。夫の転勤で5度の転居の後、平成9年に北見市に転入、子育てや家事を行いながら在宅でフリーライターとして活動。平成10年に「ネットオフィス」を実践するため有限会社ワイズスタッフを設立。設立当初、社員は社長一人で契約メンバーと呼ぶ社員が全国や海外に50人。数人がチームとなりホームページ作成やアンケート収集・分析の仕事をインターネットでやりとりしてこなす。平成13年に夫が会社を辞めて入社、経理や総務担当として会社を支える。平成17年に株式会社に組織変更、道の委託事業を受託するほか、全国を視野に入れて活躍しており、その活動は高く評価されている。</p> <p>3人の子を持つ主婦であり、会社の社長であり、コンピュータ雑誌や書籍を手がけ、大学の非常勤講師のほか、各種講演会の講師も務め、幅広く「まちづくり」にも参加するなど、多岐にわたり活躍している。</p> <p>家庭でも手軽にインターネットを利用できるという現代の社会情勢を的確に把握して起業し、子育てと仕事を両立させており、子どもを持つ母親の身近で模範的なモデルと言える。また、従来の固定概念にとらわれることなく、新たな発想によりネット上に会社を展開して、ネットビジネス界の代表的存在となっており、今後も様々な分野でその活躍が期待される。</p> <p>出産や子育てなど、仕事との両立で女性を葛藤させる壁を打ち破るワークスタイルとしてのSOHOを、組織として運営する会社をネット上に作るという、置かれた環境の中で、時代のニーズを捉えて自分の持つ能力、経験を十二分に生かすその発想と行動力は、多くの人々に刺激を与え、チャレンジの幅を広げるモデルとなる。また、メンバーとして登録した人々も自分の能力に応じて働けるシステムは在宅ワークの新たなあり様を提示しており、家族の介護や育児を抱える女性にも希望と元気を与えてくれる事例と言える。さらに、女性だけでなく在宅ワークをせざるを得ない男性や高齢者も参加できるワークスタイルは地域社会の振興への貢献も期待される。</p>			

【輝く北のチャレンジ賞】

団体名	NPO法人お助けネット	代表者氏名	代表 <small>なかやみちえ</small> 中谷通恵
住所	白老町	推薦者	白老町長
<p>《受賞理由》</p> <p>地域の「子育てママ」たちの実体験や小さな気付きから始まった活動で、初めはノウハウもなく試行錯誤の毎日だったが、子育てを応援したい、行政任せでなく「まず自分たちで」という熱意により支えあいの輪が広がり、現在ではNPO法人として会員150名を数えるまでに至っている。</p> <p>平成3年に町内初の育児サークルを開設、以後、毎年約50組の親子が加入し、現在も幼児期の親子の交流、情報交換の場として重要な役割を担っている。平成10年から託児サービスを開始、個人託児だけでなく集団託児も行い、講演会や学習会等の子連れでの参加が増える。また、子育て通信など多くの情報誌を発行、平成13年には父親のための子育て応援ブックを製作、身近な育児書として道内各地から注文が相次いでいる。インターネットによる情報交流、育児相談、子どもの学習アドバイス等も実施しており、子育ての不安や悩みを抱える親たちの心の支えとなっている。さらに、子育てやDVなど男女平等参画に関わる研修会やイベント等社会教育事業も積極的に主催している。</p> <p>会員が少しずつ知恵と汗を出し合い、それぞれの負担を減らすことで、継続した活動が可能となっており、活動内容も「母親感覚」を活かして、行政では行き届かない育児サークルの立ち上げや、病時託児を含む託児システムの構築など先駆的な取組みを行い、まちづくりの担い手として大きな原動力となっている。会員の主婦層にとって社会参加・社会貢献の場として貴重な存在であり、また、活動で培った知識や経験を活かして講演活動や行政の各種委員会等に参画する会員も増えている。毎年多くの視察受入れや講演を行い、全道の仲間たちに経験やノウハウなどを情報提供しており、地域密着型の団体活動の先進的好事例として多くの注目を集めている。</p> <p>平成16年にNPO法人となり、町の事業を受託するなど、活動の幅を広げている。平成18年には子育てサロンの開設やファミリーサポート事業への参入も予定しており、今後、町の「子育て応援団」として、さらなる飛躍が期待される。</p> <p>病児保育への取組は先駆的であり、仕事を持つ親の支えとなっている。行政に依存することなく、地域の核となつて、広い範囲に波及している。無理なく着実にステップアップしており、構成員の力がその個性や能力に応じて様々に活かされ、また、会員の夫、父親たちも巻き込んで展開しており、今後の活動にさらなる広がりが期待される。</p>			

【輝く北のチャレンジ賞】

団体名	西川マザーウツズ	代表者氏名	会長 <small>ふなこしたかこ</small> 船越孝子
住所	静内町	推薦者	水産林務部（日高森づくりセンター所長）
<p>《受賞理由》</p> <p>平成9年発足。農家の主婦たち10名が地元の資源を生かし女性の立場で地域に貢献できることを模索しながら活動している。</p> <p>主な活動としては、町有林や自治会有林の整備や緑の少年団の育成指導のほか、二十間道路桜並木の桜の葉を塩漬け加工して毎年3月3日に桜餅を地元小学校に届けたり、森のめぐみを利用したリースづくりを行い、駅構内の売店や町の産業祭で販売して活動資金の一部としている。また、山づくり技術や梅の管理技術に関する研修会、他地域のグループ、女性グループとの交流会なども実施している。</p> <p>男性と女性、大人と子どもがそれぞれ出来ることを分担し合いながら協力して作業を行うことで、地元の山林を住民が一体となって整備でき、さらに林業技術の伝承と山林への理解が深まり、住民同士の理解を深めることにもつながっている。</p> <p>近年は、地元自治会の「梅の里づくり」に協力し、夫たちの林業グループとともに梅の木の植栽や管理に携わり、梅の実を使った食品加工に取り組み、試行錯誤で商品開発を続け、平成16年度から本格的に販売を開始、将来的には西川地区が梅の里として梅の花の名所に、そして、梅の食品が地域の新たな特産品になることを目標としている。</p> <p>地道な努力が自己資金の着実な確保と活動内容の充実につながっており、やる気と団結力があれば新しい取組が可能というモデル的な存在である。</p> <p>夫や子どものグループと協力して行う様々な地域貢献活動は、男性も女性も、大人も子どももそれぞれが持つ個性と能力を活かし、地域で人と人が支えあうことの大切さを次の世代に伝えている。こうした地域に根ざした活動は、農村女性の親睦を深め団結力を強めており、その活動は地元のみならず周辺地域からも評価されている。</p> <p>構成メンバーが30代から50代と比較的若く活気にあふれており、今後のさらなる活躍が期待でき、また、構成員が地域でいきいきと活動する様子は子どもたちにも大きな影響を与えており、次の世代へ活動が引き継がれていくことが期待できる。</p> <p>男性との協力だけでなく、子どもの育成でも様々な取組を行っており、男性や子どもたちとのいい意味の役割分担により、地域が一体となって豊かな自然を活かした魅力あふれる活動を行っている。道内各地との交流の広がり、積極性も見られ、本道における第一次産業分野の女性たちの活動の励みとなる事例と言える。</p>			